

當社の相殿日吉社は、小兒の病に罹りて薬水の通せぬ時祈請して験驗があるといはれる。明治元年天道寺は復飾して天野道之輔といひ、當社に神勳することになった。

アサノガハオホハシ 淺野川大橋 金澤橋 梁記に、藪の橋、淺野川大橋の事とある。傳説にも此の橋の古名をとろき橋と呼ぶといふが、文献には見えない。今は淺野川橋とも淺野川大橋とも呼んでゐる。藩初以來、犀川・淺野川兩大橋架替への費用は、金澤本町及び半役七所の町々に割當するの例であり、大ききは延寶の金澤園に橋長五十間・幅三間とある。此の橋は兩橋爪に馬除があつて、犀川橋とは異なつてゐたが、明治九年に築造の時、馬除を取除き、橋の長さ三十四間・幅四間に改めた。

アサノガハカケツクリ 淺野川掛作 金澤 枯木橋から淺野川大橋に至る間、今の橋場町をいふ。佐久間盛政の居城時代には仕置場のあつた所といふが、其後懸作りの家屋が建てられてゐたのだらう。↓カケツクリ 懸作。

アサノガハカハヨケマチ 淺野川川除町 金澤の町名。越登賀三州志來因概覽附録には淺野川川除町の外に、淺野川下川除町があつて、それは中島町と下淺野町との間に記されてゐる。この下川除町は元祿三年の火災記にも、同九年の地子町肝煎裁許付にも夙に見えるものであるが、明治四年の改定以後淺野町に屬し、河の左岸上流に淺野川上川除町があるばかりになつた。

アサノガハコバシ 淺野川小橋 淺野川大

橋の下流にある橋梁をいふ。藩政時代の金澤城下では、犀川には大橋のみであつたが、淺野川には大橋と小橋とがあつた。

アサノガハシモカハヨケマチ 淺野川下川除町 ↓アサノガハカハヨケマチ 淺野川川除町。

アサノキヨノリ 淺野清則 通稱將監。祿千四百石より二千石に至つた。大坂再役には南條辻で合槍し、又眞田丸及び後谷の上で敵首二を獲た。寛永十六年病歿。その子將監遺知の中千五百石を襲ぎ、寛永十六年富山藩の從臣となつた。

アサノクエモン 淺野九右衛門 初め御歩として五十俵を受け、後小頭に進んで新知百石を領し、寛政九年組外に列し、又十石を加へ、十二年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

アサノサンノウシヤ 淺野山王社 ↓アサノジンジャ 淺野神社。

アサノシロベエ 淺野四郎兵衛 加賀藩の御廣式番で、享保七年同役佐川源八と御番所にて口論の後果し狀を送つたが、その事願れ、亂心者として知行を召放された。

アサノジンゴザエモン 淺野甚五左衛門 後道喜と改めた。貞享四年三月十九日奥附御歩横目より轉じて坊主頭に任ぜられ、祿百石の外に十石の役料知を賜はつた。子孫相繼いで藩に仕へた。

アサノジンジャ 淺野神社 河北郡淺野に鎮座する。この社は式内等舊社記に「淺野山王神社。小坂庄内淺野村鎮座。舊社也。」と見えるもので、明治以降は淺野社といひ、十三年九月淺野神社と改めた。

アサノタニ 淺ノ谷 アサン 河北郡井上庄

に屬する部落。古くは淺野谷とも書かれて居た。明治中隣邑谷山を併合した。

アサノトウザエモン 淺野藤左衛門 前田利常に仕へて千石を領し、御使番・中小將番頭・足輕頭・御子小將裁許を経て、正保元年小松町支配となり、萬治二年歿。子孫相繼いで藩に仕へた。

アサノナカジマ 淺野中島 河北郡小坂庄に屬する部落。

アサノヒニンマチ 淺野非人町 金澤の舊町名。藩政時代には非人頭並びに札持非人の住所であつた。もと河北郡淺野中島の地内であつたが、明治四年八月隣接淺野隱坊町と共に淺野新町と改稱し、金澤に編入せられた。

アサノフカタニ 淺野深谷 河北郡井上庄に屬する部落。

アサノフキヤマチ 淺野吹屋町 金澤淺野雜物師の居所附近を呼んだが、明治四年四月戸籍編成の際その町名を廢し、下中嶋町に屬せしめた。

アサノホ 淺野保 河北郡に在つた。蟻川親元日記に「文明八年十月十七日下河原周防入道永門、二條殿御家領加州井家庄領家職半分並淺野保御代官職事依仰、萬足餘令借物爲證錢、御領無爲請取候處、無御返辨之儀無故御改易云々。」大館常興日記天文八年七月五日の條に、「二條家領加州小坂庄淺野保」と見える。この保は後の淺野村・淺野中島村等を含むものであらう。

アサノマサチカ 淺野政局 通稱三九郎・周左衛門。栗葉と號した。中村可致の三男で、淺野政次に養はれ、天保元年七月祿百十石を襲いだ。六年五月學校頭師に任じ、九年十月

公子前田利義の傳となり、安政元年町同心となつたが、その志に非ざるを以て之を辭し、七月加秩四十石、小松馬廻番頭となり、文久三年五月組外番頭に轉じ、後學校の督學に陞り、明治三年六月金澤藩の權少屬に任じた。老後家に教授し、好んで墨竹を畫き、二十二年四月八十六歳を以て歿した。

アサノマチ 淺野町 金澤の町名で、淺野町・下淺野町に分かれる。昔は河北郡淺野の村地であつたが、次第に町地に屬せしめたものである。

アサノヤキ 淺野燒 河北郡淺野の地で、初代大極長左衛門の門下五平が燒成した樂燒。黒樂の中に、大極燒の特技たる鉛釉を二三所點出するを特徴とした。

アサノヤサヘイ 淺野屋佐平 金澤の町人鹽屋次左衛門の次子。諱は茂枝又は茂身、茂幹。通稱も或は策平或は策柄とし、麻舎はその號である。佐平夙に和歌を田中躬之に學び、福岡惣助と交つて國事を憂へ、金澤町會所横目肝煎兼選送方の職を以て京師に滞在するや、常に海内の形勢に關して注意を怠らず、文久二年島津久光上洛の風聞があつた時、屢京橋の間を來往して實否を探り、錄して之を藩に告げた。元治元年六月會藩の吏が浪士吉山六郎を京師に捕へた時、六郎の懐中して居た福岡惣助の書は、惣助が當時處罰中なるに拘らず、佐平に託して致さしめたものであつた。因つて藩は吏を派して佐平をその旅舎に捕へしめ、檻送して公事場に拘致し、十月廿六日永年の刑に處した。後佐平は慶應元年四月五日獄中に歿。年五十二。明治二年十月藩前罪を赦し、三年十一月祭糞料をその